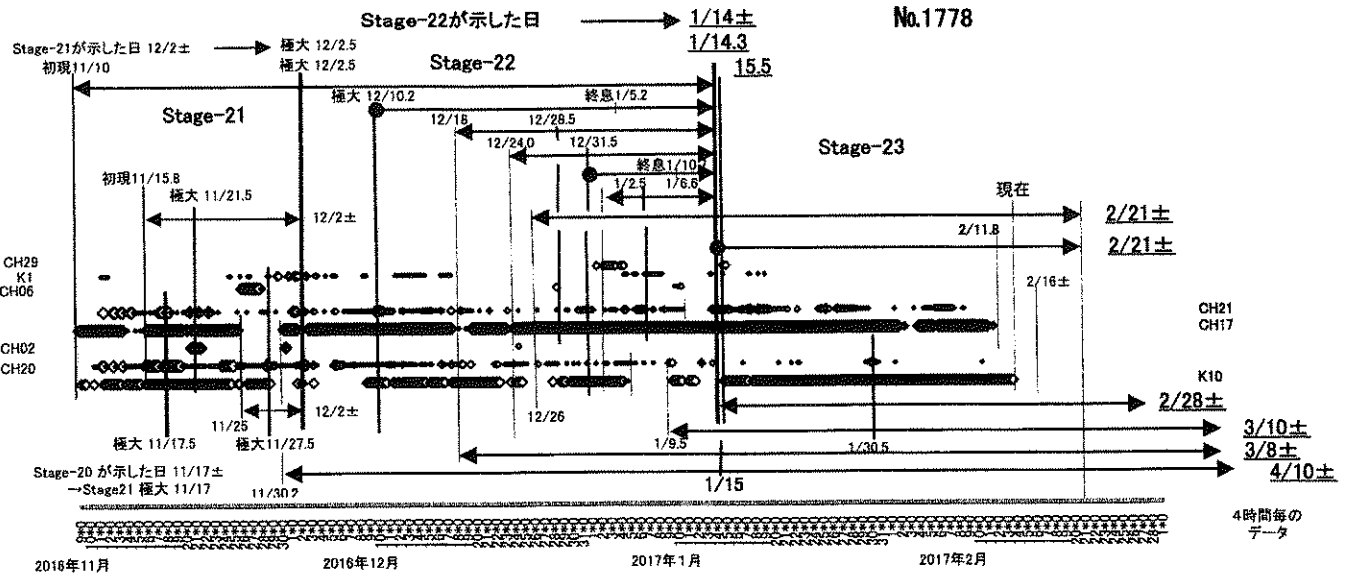


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報現況報告 2/11.8 CH17静穏化の可能性
K10 2/16±静穏化の場合→2/21±の可能性 継続の場合→他の可能性

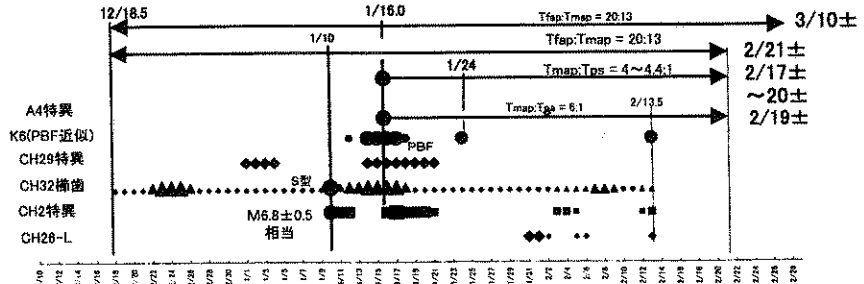


2008年07月より8年7ヶ月以上継続する観測歴上最長継続前兆No.1778の続報、現況報告です。

2/15±または4/10±など、現在の第23ステージが示す時期の可能性を報告しておりますが、表題のとおり、2/11夜20時頃に長期に渡り継続出現していた八ヶ岳のCH17の糸状特異が終息致しました。CH17は2/2に一度静穏化しましたが、その際は約36時間程で再出現。今回は既に43時間以上静穏基線が継続。今後は再出現の可能性も否定できませんが、このまま静穏基線が継続した場合は、上図に記したとおり1/15極大に対する静穏化の可能性も示唆されます。

上図の上側は、No.1778長期継続地震前兆の最近の前兆出現状況図。下は1/16極大認識のK6-PBF・CH32歯歯地殻地震前兆等前兆群の前兆出現状況図で、No.1778前兆と時間軸を合わせて表示してあります。

E-mail・FAX で日々配信しております「地震前兆検知観測情報」では既に何度も報告しておりますが、1/10に八ヶ岳のCH26とCH32に火山帯近傍地殻地震前兆であるS型前兆近似出現が観測されました。また1/16を中心に高知観測点のK6に、連続PBF (PBF) 近似前兆 (下波形参照) がまとまって出現致しました。継続時間計からはM6.8±0.5相当のPBFですが、通常の前兆PBFとは形態が異なります。さらにCH32には歯歯前兆=浅い地殻地震前兆が顕著に出現致しました。これらは火山帯近傍地殻地震前兆の可能性が有、No.1778前兆の別形態前兆の可能性もあります。No.1778前兆は、CH17が静穏化の場合は2/21±も計算できますが、この場合は、K10が2/16±に静穏化する筈です。静穏化しない場合は、より先の可能性。2/21±、2/28±、3/10±等可能性がありますが、2/17迄に静穏化するが確認予定。



◆推定領域: 下図点線領域内=大枠推定域
太線領域内=可能性高い

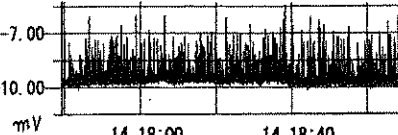
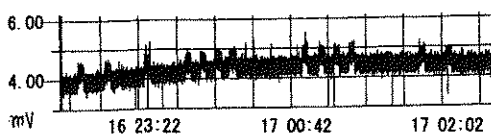
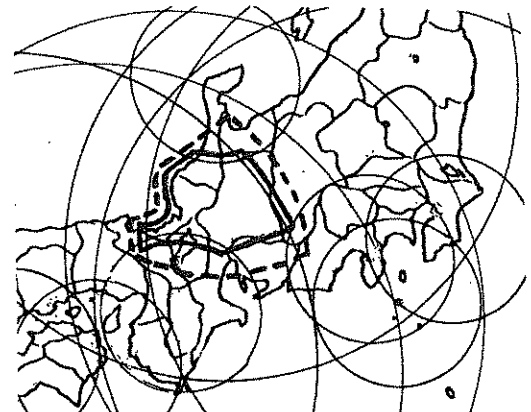
◆推定規模: M7.8±0.5
(前兆評価誤認でも最低=M6.9±0.5)

◆推定時期: K10 が2/16±終息した場合は
2月21日±2

※K10 が2/17以降も継続の場合はより先
その場合は、今後の観測を鑑みて推定

◇推定地震種: 震源が浅い陸域地殻地震

◇推定発生時刻: AM 9時±1 (or PM 6時±3)



K6-PBF 近似前兆 CH32歯歯地殻地震前兆
C) Copyright 2017 YSBO 八ヶ岳南麓天文台